

2024 年度地方政治 I 期末試験問題

担当講師 伊藤修一郎

1 1～20 の文章が、授業または教科書に照らして正しい内容（要約や応用を含む）となっている場合は①を、誤っている場合は②を選んで、マークシートに記入しなさい。

- 1 ジョン・S. ミルが地方自治を擁護したのは、中央政府に権力が集中して個人の自由が失われてしまうことを懸念したためである。
- 2 明治政府は、等級選挙と呼ばれる選挙制度などによって資産家や大地主を優遇し、地域社会を安定させ反政府運動を抑え込もうとする意図をもっていた。
- 3 1960 年代から 1970 年代にかけて、自治体や企業に対して抗議や要求を行い、社会システムに異議申立てをする住民運動が頻発し、デモや抗議集会などが今と比べて数多く発生した。
- 4 首長選挙において、自民党と立憲民主党が支持した候補は「相乗り」である。
- 5 トクヴィルは、アメリカのタウンを観察し、住民の独立心と協力して公共の仕事に関わろうとする精神が地方自治を支えていると論じた。
- 6 革新自治体の最盛期には、保守単独・保守中道知事の合計に迫るほど多くの革新知事が当選した。
- 7 ミルやトクヴィルの思想は、明治期の日本の指導者層に影響を与え、その多くが近代国家を建設するときの地方制度の設計に反映された。
- 8 改革派首長が政党の支援を受けずに首長選挙に出馬するのは、当選後に議会の意向を気にせず、公約した政策を追究するためである。
- 9 地方議会の主な役割として、首長および首長部局を監視することが期待されている。
- 10 首長選挙で支援した候補が当選した政党は、選挙後は首長の「与党」となる。
- 11 国は国家存立にかかわる事務や統一的・全国的な観点からの事務を担い、地方自治体は住民福祉の増進を総合的に図るという役割分担があり、これに応じた権限、財源、事務の配分がなされている。
- 12 町村議会議員の前職に自営業が多い理由は、小選挙区制で選出されることにある。
- 13 機関委任事務は、自治体の首長をあたかも国の一機関であるかのように扱って国の事務を実施させる仕組みであり、明治以来、現在まで続く日本特有の制度である。
- 14 都道府県議会議員の半数近くが自民党に所属し、市区議会でも自民党議員が無所属の次に多い。
- 15 教育委員は、戦後の一時期、住民による直接選挙を行うことが法定されたが、短期間で廃止され、首長が望ましいと考える人物を自由に任命できるようになった。
- 16 日本国憲法には、自治体の長と議会の議員を住民が直接選挙すべきことが定められている。
- 17 女性が地方議会の議員選挙に立候補するのを妨げる要因のひとつに、結婚して定住した地域社会からの支援が得にくいことがあるとされる。
- 18 戦後一貫して中央官僚が知事の人材供給源となってきたのは、行政経験の豊富さと中立的イメージが地元政界で評価されるからである。
- 19 ロバート・ダールは争点法を用いて、ニューヘブンの権力がエリートに独占されていることを明ら

かにした。

20 市長の経歴をみると、1991 年には公務員出身者と政治家出身者が拮抗していたが、2011 年においては県会議員出身者の増加によって、政治家出身が上回るようになった。

2 (1) 記事 1 傍線部㉠「住民投票の実施条例案」がたどった経緯を、記事の情報に授業や教科書で学んだ首長と議会の権限に関する知識も加味して、3 行以内で簡潔に説明しなさい。

(2) 記事 1 傍線部㉡「当初予算案」が 24 年 3 月議会に提出された後、記事 1 のような経過をたどったのはなぜか。授業や教科書で学んだ首長と議会の権限に関する知識に基づき、3 行程度で説明しなさい。

(3) 議員と首長の目指すところに違いが生ずることを説明する政治学の考え方を簡潔に説明し、それが記事 1 に当てはまるかを論じ、合計で 4 行以内にまとめなさい。

(4) (1) ～ (3) を踏まえ、授業や教科書で学んだ理論を加味して、記事 1 に描写された首長・議会関係を説明しなさい。

3 (1) 記事 1 傍線部㉢「公開討論会」は授業や教科書で学んだ知識に照らすと、どのように位置づけられ、どのように評価できるか、3 行程度で論じなさい。

(2) 記事 1 傍線部㉣「市民団体」が「町民の意見や要望を町と町議会に届けるため」に設立されたのはなぜか。授業や教科書で学んだ理論を使って、3 行以内で簡潔に説明しなさい。

(3) 上の市民団体は、記事 1 にある解散請求に至るまでに、どのような手段がとりうるか、その名称を 2 つ挙げなさい。名称の説明はしなくてよい（しても加点されない）。

4 記事 2 の中から、授業または教科書に登場する論点を ひとつ 取り上げて論じなさい。授業または教科書の内容が理解できていることが伝わるように書くこと。論点を複数挙げても、一番上のひとつしか採点しない。

講評

1 正答はテキストで確認されたい。

2 首長と議会の権限や両者の権力関係に関する設問である。テキストの第 2 章、第 3 章を理解していることが伝わる解答は正答とした。

3 住民参加の制度に関する基本的な知識を問う設問であり、授業内容が理解していることがわかる解答は正答とした。

4 救済問題のつもりで設定した問題だったが、ここまで行き着かない答案が多かった。

全体 受講生が多かったため、一部にマークシート問題を取り入れたが、ここに試験時間の大半を投入した受験者が多くいて、記述式答案に白紙部分が目立った。もちろん満点に近い点数をたたき出した受験者も一定数いたが、平均点が例年よりかなり低かったため、得点調整を実施して、全体の点数を底上げした。それでも平常点の低い（リサーチ課題を提出しなかった）学生の多くは合格できなかった。